

# 東桂小だより

第7号 令和5年10月11日(水) 発行責任者：校長・清水浩喜

【学校教育目標】

みんなが主役

夢と目標に向かう東桂っ子

～チャレンジ！

自分で！自分たちで！～



## 令和5年度の折り返し！！

★「富士山に初冠雪」の知らせとともに、急速に秋の訪れを感じます。つい先日までの猛暑がうそのように、朝晩は寒さを感じます。さあ、本年度もいよいよ「折り返し」です。たくさんの成果と成長を認めながら、一つの節目を迎えています。この節目は、運動会ロスや季節の変わり目不安などが、現れる時期でもあります。故に、本年度後半の目標とそれに向けた取組方法と内容を、いかに子どもたちに落とし込むか、先生たちの本気が試される時期でもあります。そして、子どもたちが、ぐんと伸びる時期でもあります。学校においては、子どもたち一人ひとりを見つめ、丸ごと受けとめる支援を継続させていきます。どの子もみんなオンリーワン！各ご家庭におかれましても、お子さんとの対話を継続させてください。

○**学校は、心の居場所！** 令和4年度全国調査結果→小中学生の不登校約30万人！

問題や課題はあれど、それを乗り越える努力と子どもたちへの愛情にあふれていたチーム東桂小でありました。故に、子どもたちの確かな変容があります。成長があります。学校が、心の居場所になっています。この点が、本年度前半の、大きな大きな成果です。皆様方の真摯な努力に、心から感謝です。

○**「チャレンジ！自分で！自分たちで！」**

あらゆる場面で、この言葉を、指導の柱にしてきました。子どもが主体の学級づくりと授業は、県及び国においても、最も重要視している課題です。本校は、「自分で！自分たちで！」をキャッチフレーズに取り組んできました。職員の中では、「教えるべきは教え、待つべきは待つ」いかに待てるかということを課題にしています。そして、「子どもに活躍の場を与える」「子どもの中にリーダーを」という指導をめざすことが大切であるという一つの結論を出しています。実態や発達段階は違えども、ここを意識した指導こそが、「自分で！自分たちで！」につながるのだと確認し合っています。運動会のやる気に火が付いた子どもたちの姿から、やればできると確信しました。大きな成果であるにとらえています。未来に向かって、自分で！自分たちで！

○**「ほめてのぼす！」きちんと「叱る！」**

「あいさつは、東桂小の宝物！」「読書大好き東桂小！」「担任以外の先生方からほめられる東桂小！」「帰りの会で、みんなでほめ合う東桂小！」こんな場面が連続しました。今後も、ほめてのぼす教育で、子どもたちに自信と自己肯定感を育てていきます。ただし、気になる点は、「叱る」ということです。教師が、ここぞというときに叱ることは、とても大切なことだと考えます。「先生は、こういう時は本気で叱る」ということを、子どもたちは理解していきます。先生の本気度は、いつしか子どもたちに浸透していきます。ほめることを中心にしながらか、「本気で叱る」を実践していきます。

**全校みんなであいさつ運動！**



# ★秋の遠足みんな😊いっぱいでした！！

1年生は、金川の森と万力公園！



4年生は、三湖台・氷穴へ！



2年生は、河口湖遊覧船  
と富士山レーダードームへ！



5年生は、国会・全日空機体工場



3年生は、多摩動物公園



6年生は、三つ峠へ！白糸の滝！



★天候に恵まれた秋の遠足が、終わりました。大自然や大都会を満喫したり、みんなで力を合わせて活動したり、充実の遠足でした。こうした行事を通して、みんなで楽しむことを体感することは、学級が学年が学校が、「心の居場所」であることの実感にもつながります。私も、遠足に参加しましたが、子どもたちの助け合いや規律（特に、自分たちで時間を守ることが、すばらしくできていました！）に、大きな成長を感じました。なお、来年度に向けては、運動会の開催時期を検討中です。その結果によっては、遠足の日程変更もあります。もちろん、実施です。

## ★各種表彰の紹介です！

### ○都留地区理科自由研究発表会

《4年生の部・優秀》「ダンゴムシの研究」関口七海 ※代表で県へ  
《5年生の部・優秀》「食虫植物の研究」初原史恩 ※代表で県へ  
《6年生の部・優秀》「カナヘビの観察自由研究」安留龍佑

### ○読書感想文南都留支部

《低学年の部・県入選》「おやからのあい」1年・北野心望  
《中学年の部・県特選》「あきらめない大切さ」4年・関口七海

### ○都留市交通安全啓発標語コンクール

《高学年の部・都留市交通安全連合会長賞》  
「家を出て ただいままでが ぼくの仕事」5年・中谷颯太



★日頃の成果が表れた結果です。  
みんなで、大きな拍手を送りましょう！

「チャレンジ！自分で！自分たちで！」 今後もチャレンジが続きます！